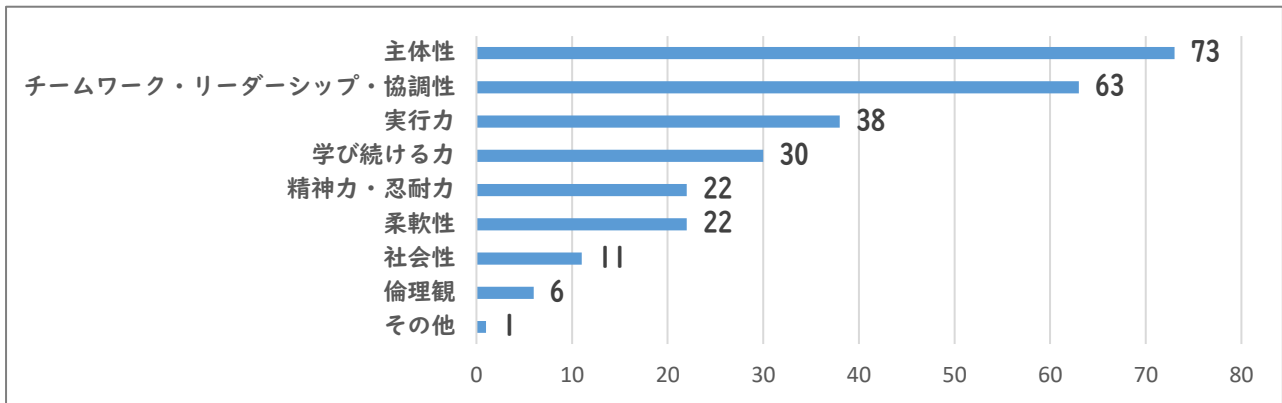


■実施方法等

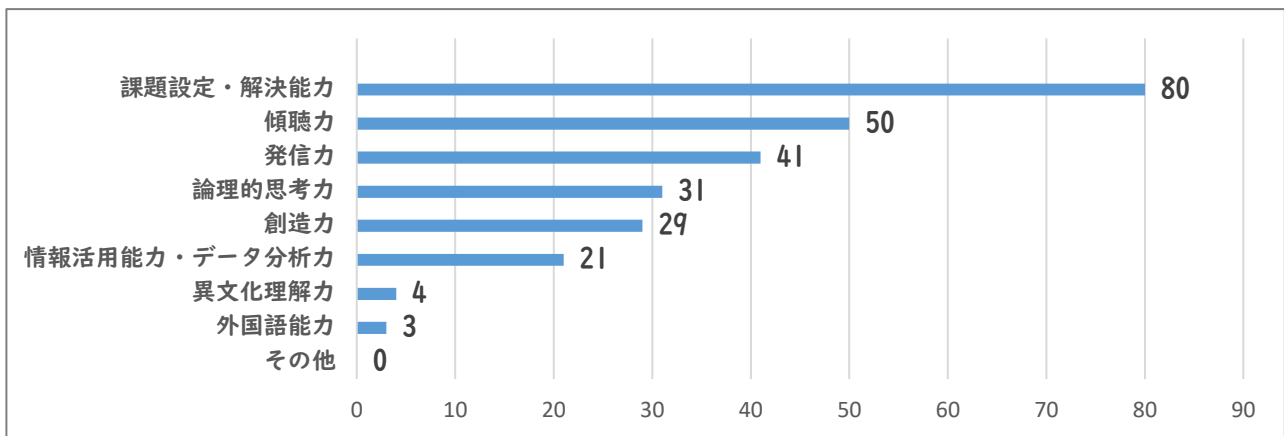
- ・2023年11月16日（木）17日（金）20日（月）21日（火）の4日間で開催した「関西大学と企業との情報交換会in大阪」に出席の企業を対象としてアンケートを実施したもの。
- ・回答受付期間：2023年11月16日（木）～24日（金）
- ・出席企業数：95社のうち、回答企業数：86社 ※回答率90.5%

■回答内容

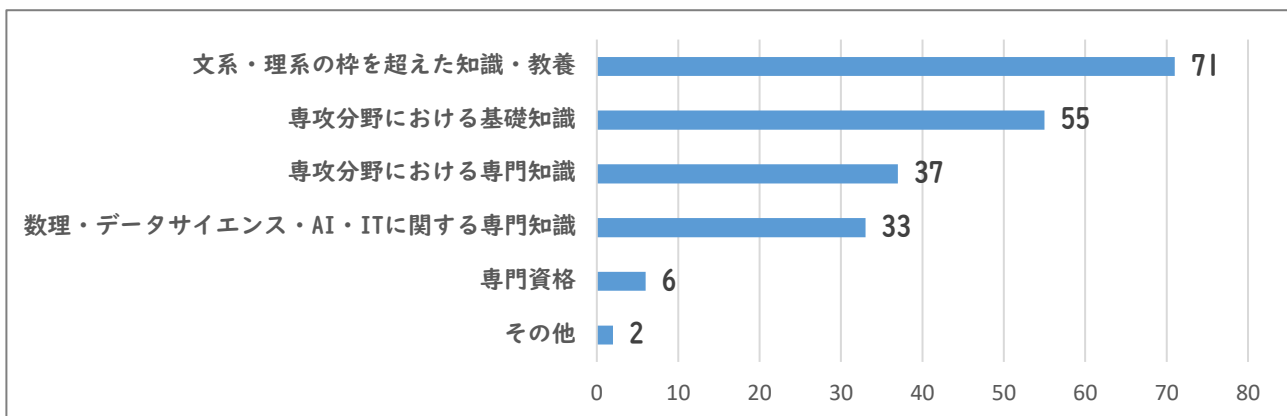
Q1. 採用の観点から、大卒者に期待する「資質」について（最大3つまで選択）



Q2. 採用の観点から、大卒者に期待する「能力」について（最大3つまで選択）



Q3. 採用の観点から、大卒者に期待する「知識」について（最大3つまで選択）



Q4. 採用時の判断基準として有効活用が可能な「学修成果の情報(※)」について(自由記述)

(※)「学修成果の情報」とは、一般的な成績証明書には記載されない「資格」「研究」「語学」の情報など、学位に関する個人別の証書として記載を求めるもの。

*****以下、括弧内の数字は回答企業数*****

- ・TOEICなど、語学の資格(24)
- ・研究内容、学会、論文などの実績とその目的(11)
- ・デジタル、IT関連スキル(6)
- ・簿記(6)※財務経理職志望者は特に。
- ・ファイナンシャルプランナー(2)
- ・通関士(2)
- ・基本情報技術者(3)
- ・中小企業診断士(1)
- ・食品表示、栄養管理士などの資格(職種による)(1)
- ・建設関連の資格(1)
- ・運転免許証(1)
- ・宅地建物取引士(1)
- ・電気設備工事関連の資格(1)
- ・課外活動(1)
- ・日本語能力試験N2以上(留学生)(1)
- ・特に必要な資格などはございません。どのような資格であれ、ご本人がどのような目的で資格取得に取り組まれたかを重要視している。(1)

Q5. 「その他大学の教育面全般」について意見や求めること(自由記述)

①キャリア教育の重要性・必要性

- ・低学年時からのキャリア教育、知名度や規模感のみならず企業に入って何がしたいか、どんな自己実現を果たしていきたいか等、将来を見据える為の教育を企業と共に学生様へご提供していく事で、企業に入る事で終わらず、その先の会社に対する貢献や日本経済の発展に繋がるのではないかと考えている。キャリア教育において、当社でもお力添えできる事があればお申し付けいただきたい。
- ・キャリア教育では、ぜひ幅広く視野を広げて企業を比較して、納得して自分にマッチする会社を探していただけるようお伝えいただきたい。
- ・現在は売り手市場で、沢山の企業と接点を持つことなく短時間で判断されるケースが多い。それだけ良い企業に就職しやすいということかもしれないが、本当に自分に合う企業や仕事とは何なのかをしっかりと考えて活動できるように、授業の中でもキャリア教育等に積極的に取り組んでいただきたい。
- ・キャリア教育の浸透。正直、本日の講演で話されたような教育が学生にされている印象は受けない。
- ・キャリア教育において、大手企業と中小企業が比較できるようなプログラム。
- ・工場見学などのプログラムがあれば、当社の工場(製造業/三重県)を利用いただきたい。
- ・低学年のキャリア教育についても、他大学で関わらせていただくこともあり学生のキャリア形成と学生生活の接点を作る機会に参画したい。
- ・キャリア教育に関して、今後のキャリアを早期の段階で考えるのは難しいことだと思うが、是非自身が何を優先して就活したいのか(大学で学んだ知識を活かしたいのか、配属地を優先するのか等)自己分析をしっかりと行うよう促してほしい。
- ・学生のキャリア観の醸成として企業の採用担当やOBOGから講義をする時間を設けた方がよいと感じる。学生からすると、キャリアセンターから話をするより、企業の中の人の生の声を聞いた方が強く印象に残るのではないかと考えている。

②大学への期待

- ・企業との連携によるリスキルのプログラム、またはどの年齢でも大学で学べるロールモデルの構築とその情報発信。
- ・働くことや社会人になることに対する意識付けや、動機付けができていますと、入社後のギャップを減らすことにも繋がり、目標を持って活躍できるのではないかと。
- ・産学連携だけではなく、日常的に学生と社会人が交流できる機会を創出いただくと、次世代人材の育成に繋がると感じている。
- ・今後も学生の主体性を伸ばす取り組みをお願いしたい。
- ・もう少し社会性を養うような制度があればよい。
- ・キャリア教育も進めていただくと助かりますが、何事にも真剣に取り組まれる学生は魅力的である。大学の本分として、それぞれの専攻に本気で取り組む学生を育てて欲しい。
- ・面倒くさいこともチャンスだととらえて行動する考え方の指導。その行動を周りは見ており、その評価が個人の成績（学校で言う成績表）になり年俸が決まる。何事にも前向きな学生が増えれば企業としても助かる。
- ・学生の可能性を広げる教育があれば良いと感じた。具体的には、入学段階で決まっている専攻など、学びの中である程度自由に選択できる環境があると良いと感じる。一部の学部においては、就職活動先が限られるなど、初期段階で可能性を狭めてしまう学生が多いように感じており、学びを自由に選択できることもそうだが、加えて学生の視野を広げる教育をしていただけるとありがたい。
- ・主体性をもって自身のキャリアを選択できるよう、学生への支援をお願いしたい。
- ・国際競争に耐え得る逞しい人材を多く輩出して欲しい。
- ・学生のコミュニケーションの能力を向上させるような教育
- ・最低限の教養やマナーの指導をお願いします。
- ・大学での教育というよりも、幼少期や家庭での環境が影響しているようにも感じるが、自己肯定感を高く持てる教育、自信を持って行動できるような指導をお願いしたい。

③企業から見た身に付けておいて欲しい能力

- ・研究やゼミ活動において、学生が自ら仮説立案、実験・調査、結果の考察という一連のプロセスを自立的に実行出来るようにトレーニングすることは、専門分野を問わず重要だと感じる。多くの学生に不足している能力だと認識している。
- ・双方向のコミュニケーション力
- ・社会で生きていくための、「心構え」「知恵」「術」を鍛えてほしい。
- ・人前で話す力やわかりやすく物事を伝えるための論理的思考など、ゼミや授業などを通して鍛えられる場がたくさんあれば良い。
- ・チームでの課題設定、問題解決力を養えるグループ学習等。
- ・学問にとどまらず幅広い経験をしていただくと今後役立つ。
- ・社会性、一般的なマナー等
- ・コロナでリモートに慣れていますが、やはり対面慣れをしておいてほしい。
- ・専門知識はもちろん、多方面への経験が今後役立つと考える。

④その他

- ・学生の思い込みなどによる機会損失を払拭するサポート。例えば、インターンシップに落ちたから採用試験に受からない等、学生が間違った認識をしてしまっている例が見受けられる。
- ・大学での授業や部活、ゼミ等、学生時代ならではの経験を沢山積んでいただきたい。
- ・積極的に様々な会社を見ることが大切だと考える。
- ・産学官で就活のあり方を議論し続ける必要を感じている。
- ・就職に対する理解度を深めるため、カリキュラムに就職に係る情報を盛り込んで欲しい。
- ・学生時代から、多様な価値観に触れ、意見を交換する機会があると良い。
- ・自分をアピールする、表現することが苦手な学生や、自己肯定感が低い学生、まわりからの評価を非常に気にする学生が増えてきているように感じている。
- ・大学と企業で連携して学生を育てていきたい。
- ・学び続ける姿勢。